

一般質問と

答弁内容

高間澄子議員質問

公共交通体系について

問 JR北海道は3月に夕張支線の一日の運行本数を9往復から5往復の減便により不便を感じている市民もいる中でJR石勝線夕張支線廃止を決断した真意と経過を伺う

答 夕張支線のトンネル・橋梁の土木構造物が約100年経過し老朽劣化が著しく、列車運行を継続するには億単位の費用が見込まれる。利用者数は大幅に減少の状況であり1年間で1.8億円の赤字が発生。地元負担を求める線区の指定は避けられない。市民の足を守ることが重要と考え①市が進める施策への協力②JR北海道が保有する施設等の扱い③社員の市への派遣の3点について協力を要請した。JR北海道はこの3点に協力する方針を示し、夕張支線の鉄道事業廃止について正式に申し入れが

あった。

問 夕張支線廃止後の地域交通のあり方について

夕張支線廃止により、通院、通学、通勤や除雪等様々な影響が考えられるが、事前に把握しているのか。また、影響調査が必要と思うが、考え方を伺う

答 ①様々な交通資源を組み合わせ小・中・高の輸送を第一に市民の足を確保する。②南北軸幹線を軸に、移動実態に合わせた運行とする。③小規模運送を担う交通事業体を育成し交通体系の充実を図る。

問 夕張市の鉄道の歴史を残す手立てについて

夕張支線は、明治25年開通し本市の石炭産業の発展を支えてきた。歴史的背景から石炭の歴史と共に鉄道関連遺産も後世に残すべきと考える。JR北海道に協力要請した中の一つとして、SL館に収蔵してある貴重な機関車車両の移設・保存の協力を求めるべきと考え、市長の考えを伺う。

答 鉄道関連遺産を、維持管理していくことは困難であると考えている。SL館に

収蔵の車両の移設、保存については、そのような声もあることを受け止めたい。

本田靖人議員質問

国、北海道及び夕張市の三者協議について

問 開催日程がずれ込んでいく理由と今後の予定について伺う

答 財政再生計画の抜本的見直しをテーマに協議を実施するため、準備作業に時間を要していることから今年の開催が遅れている。国及び北海道と協議し、10月最終週に開催する予定となっている。

問 開催の形式や出席するメンバーに変更はあるのか。また、市長が出席する予定があるのかを伺う

答 事務者レベルの協議には、例年通りのメンバーで実施するため市長は出席しない。可能であれば大臣にもお越しいただき、事務者レベルの協議とは別に政治レベルの話をしたいと考えている。

問 今年の三者協議は、財政

再生計画の抜本的見直しに向けて重要であると考えているが、これに臨むにあたって市長の覚悟を伺う

答 市長就任以降の5年間、「挑戦」を繰り返してきたが、その度に財政再生計画という大きな壁にぶつかってきた。今年度末時点で116億円以上を償還する予定だが、その副作用として本市の人口は、破たん以降3割減少した。

現財政再生計画において可能な範囲の変更はこの5年間でやりつくした。

今こそ、市民、議会、行政が力を合わせ「総力戦」で現財政再生計画を壊さなければならぬ。

これは、「夕張の未来を取り戻す戦い」であり、先人やこれからの夕張を支えていく子供たちのために今、我々が立ち上がらなければならない。

この10年間耐えに耐えてやっとなかんだ「最初にして最後のチャンス」だ。この覚悟と市民の思いを背負って、自らが先頭に立ち、財政再生計画の抜本的見直しに取り組んでいきたい。

小林尚文議員質問

夕張市特定財産について

問 レースイスキー場を含む4施設の売却について

答 選考に際して「売却価格以外も重要」とし①4施設一括売却②スキー場の継続③現従業員雇用確保④運営の円滑な移行⑤市内取引先など関係先との関係維持も重要である。また、4観光施設の売却に関し、スケジュールが前倒しできるなら、夕張市、売却先互いにとって望ましいことであるので、二月上旬としている。売却先の絞り込みを早めたい。

公募に応じた企業や7月に行われた1次選考の通過企業の概要は、競争性を伴う売却であり件数を含めて答えられない。

問 都市公園の活用について

答 丁未風致公園については、現在の範囲での利用を考えている。高松ファミリーキャンプ場については、今後選定される観光施設の売却先などと協議・検討をしている。

問 夕張の農業振興について
地理的表示保護制度につ

いては、夕張メロンの単価の上昇やふるさと納税が3倍強に増えており、GI効果があったと考える。ブランド力の維持、推進に次期夕張市農業振興計画に盛り込んでいきたい。

夕張メロンの安定生産については5月に「地域創生部会」を立ち上げ振興策について協議・検討を行なっており、安定供給が求められる加工メロンの生産増や、遊休農地対策に地域おこし協力隊等の栽培技術の修得により、新規就農対策にも寄与すると考える。また、雇用労働の実態を把握し具

体策を検討する。



夕張メロンハウスの風景

千葉 勝議員質問

子育て世代の経済的負担軽減について

問 今年度から新たに中学校でスキー授業を実施するにあたり、道具の購入費またはレンタル料金、リフト、交通費など多額の費用を要すると思いますが、保護者に対する負担軽減について

答 中学校におけるスキー授業の保護者負担はリフト代のみで、スキー用具やスキーウェア等をご家庭で用意できない場合はレンタルを利用していただき貸し出しをする。移動に係るバス代についてもレンタル料とともに市で負担する予定でいます。今後とも、負担軽減について十分に協議検討を行っていききたい。

夕張高校の魅力化事業について

問 夕張高校の魅力化事業として、予算計上された250万円の現在まで実施した事業の具体的内容とこれから予定している事業に

ついて

答 就職時に有利なさまざまな資格取得にかかる費用助成をスタートさせたところです。昨年を大きく上回る人数が受験しているとお聞きしている。また、大学入試模試も昨年より多く実施している。一方、これまで実現できなかった進路講演会や部活動の遠征費補助なども実施しています。高校生夕張キャンプで交流が育まれた東京都立八丈高校に「夕丈プロジェクト」として3名の生徒を9月下旬に短期留学体験として高校に訪問させる予定であります。

問 夕張高校の魅力化事業について小学校の保護者や地域住民に対して、今後どのように情報提供を行っていくのか。

答 幼小中高連携の中でさまざまな情報共有をお互いに知っておくということを図りながら効果的に地元高校の情報発信をしていきたいと考えているところです

決算審査特別委員会

平成27年度一般会計ほか7事業会計決算認定は、9月13日の決算審査特別委員会で審議が行われ、4名の委員から①歳入確保としてのふるさと納税について②平成27年度の財政運営について③地域との連携による学校づくりの推進について④朝日新聞に掲載された、北海道はじめ全国85自治体が財源不足を隠す会計操作についてなど22点の大綱質問をし、市長から答弁を受け、款別ごとに審査を行い、その後採決をした結果8案件は全会一致で認定すべきものと決定されました。

大綱質問と答弁内容

今川和哉委員質問

- 問** ①歳入確保策としての「ふるさと納税」について
②プレミアム商品券発行事業についての相談事業について
④定住促進政策について
⑤「資源」を活用した地域

答 活性化への挑戦について
○ふるさと納税により、夕張高校の魅力化・中体連選手派遣・通学路交通安全プログラム策定などの事業が可能になった。

○プレミアム商品券の換金率が99%を超え、市内商店における消費喚起、経済波及効果が一定程度図られた。

○定住移住促進政策についての効果と評価として、これまでの公営住宅を中心とした住宅整備から、民間事業者と連携をしつつ、選択肢のある住宅整備を行っていくということで民間賃貸住宅建設促進事業を行い、一定程度の定住移住促進効果があつたことが報告されました。

○森林資源の活用、キハダ・ホオノキの植栽事業に関する評価としては、ホオノキの植栽規模が現時点では当市が日本一であることや、道内外から林業関係者の視察が多数来ていること、夕張市総合戦略検証委員会においても、全委員から最高評価であるAの評価を受けた。

熊谷桂子委員質問

地域との連携による学校づくりの推進について

問 Q・U（楽しい学校生活のため）アンケートや「子どもの悩み・苦しみの早期発見・対応アンケート」の効果・評価は。

答 Q・Uは中学生対象で問題の早期発見と解決のため年2回実施。満足度は飛躍的に向上し、学力にも前年と比べ結果が出ている。「子どもの悩み」アンケートは小中学校で、はじめをなくすため年2回実施。課題解決に向け、すみやかに手立てをとれる。小学校では『お悩み相談箱』を設置、全員を対象とした教育相談、個別の相談も実施。中学校では年3回の個別面談、スクールカウンセラーや相談室の活用などを行っている。

問 「近隣の市町との連携、デジタル教材やeラーニングシステムの活用」の効果は。

答 総務省の地域ICT利活用広域連携事業として、

中学校への機材購入、授業実践が行われている。

千歳市立富岡中学校・栗山町立栗山中学校と夕張中学校が連携し、情報交換をして実践に役立てている。総合学習の調査などで、生徒各自がタブレットで熱心に取り組んでいる。

意見 夕張高校への進学率が下がったことについて、ある先生は「小・中学校の学年の多くが一クラスずつで、いじめ等の人間関係の固定化も一因ではないか」との意見。限られた人間関係であっても、その中で向上し合える教育的な取り組みを今後お願いしたい。

本田靖人委員質問

「北海道における不適正な会計操作」について

問 朝日新聞の記事によると、北海道は「夕張問題」発覚前から不適正な会計処理を行っており、その額は約588億円にも及ぶ。本市の財政再建計画策定時に北海道の果たした役割は決して小さくなく、「市民の

生命にかかわるもの以外は削減、あるいは縮小」の対象にするなどの厳しい指導があった。また、本市が行っていた財政運営手法について「まったく知らなかった」とし、「地方財政の基本的ルールから外れている」と指摘し強く是正を求めたものと認識している。

そこで、一連の新聞報道を踏まえた、北海道の不適正な会計処理に関する市長の見解は

答 夕張市は、このような北海道の問題に関して追及するような立場には全くない。しかしながら、10年前の背景などに鑑み、北海道には事実確認を行いたいと考えている。また、その経緯についても説明をお願いしたいと考えている。

現在、本市が取り組んでいる財政再生計画の抜本的見直しは、今後の夕張市の進路を決定づける重要な取り組みであり、北海道の協力と支援は不可欠であると認識している。財政再生計画の抜本的見直しにあたっては、協力をお願いしたいと強く思っている。

議員研修会

北海道市議会議長会道央支部協議会主催の議員研修会が8月19日赤平市において開催され参加いたしました。

研修会は、札幌国際大学教授でNPO法人炭鉱の記憶推進事業団の吉岡宏高理事長が「つながってこそ価値がある」と題しての講演で、吉岡教授は、地域に残された炭鉱の記憶を手がかりに、地域外からの刺激によって、地域内の活力が生まれる循環づくりにより、「まちの力・創造都市・地域マネジメント」という三つの要素が必要であるとお話されました。



議会议事報告抜粋

●第140回全国市議会議長会地方財政委員会に厚谷議長が出席しました。要望

(案)、要望活動及び今後の運営について協議を行った。(7月14日・東京都)

●栗山町議会基本条例制定10周年記念事業に全議員が出席しました。

(8月26日・栗山町)
●行政常任委員会では、幸せの黄色いハンカチ広場、ユーパロの湯、夕張岳ヒュッテ、あ・りーさだを視察に行きました。(7月26日)



夕張岳ヒュッテ視察

議会事務局の電話番号は

52-3172

です。なお、事務局職員が不在となりますので、その際は、恐れ入りますが、市役所代表電話

52-3131

までお願いいたします。